

誰ひとり取り残さないさばえつながりサポート事業【福井県鯖江市】

個別事業費	2,002 千円
交付金額	1,319 千円

地域の実情と課題

鯖江市は眼鏡・繊維・漆器のものづくりのまちで家内経営が多く、共働き率は64.5%、女性の就業率57.9%、労働力率59.1%とすべて県内1位(R2国勢調査)である。また3世代同居も多く世代間に生ずる知識・関心・考え方などの違いから、家庭や仕事、ワークライフバランスなどの女性相談件数も年々増加傾向にあり、対策が必要である。

目的・目標

市民団体の知見を活かした行政だけでは行き届かない細やかなサポートにより、様々な困難・孤立・不安を抱える女性に寄り添い、社会とつながる居場所をつくり支援することで、水面下で助けを必要とする方を誰ひとり取り残さず関係機関や市の支援につなげる。
目標値:ピアサポート参加者100人/相談件数50件

事業の特徴

男女共同参画・女性活躍推進の拠点施設である「夢みらい館・さばえ」を活用し“居場所”をつくることで、相談へのハードルを下げ、些細なことでも気軽に相談したり、同じ立場や課題に直面している人々が気軽に会話し互いに支えあうことができる。

連携団体

(事業受託)市民団体「夢みらいWe」:事業企画・運営
鯖江こころの電話:研修協力、情報の共有
COSAPO:子育てサロン・託児サポート、イベント共催
行政:地区公民館、児童センター、小中学校(保健室)への生理用品・パンフレットの設置

事業の効果

ピアサポーターを市民から募集したことで、多様なサロンを開催することができ想定を超える参加者があった。また、参加者の声から開催につながったサロンもあつたりと、新たな活動の裾野が広がった。女性相談は件数は少ないものの、相談者にじっくりと寄り添い必要な支援につなぐことが出来た。

今後の課題

女性相談の満足度を高めるため、事業のより幅広い周知が課題。
また、ピアサポートサロンについても継続的に市民に必要とされる場所として定着するよう、魅力的かつ効果的な内容を充実していく必要がある。

事業の概要

誰ひとり取り残さないさばえつながりサポート事業

【課題】

コロナ禍の長期化により、さまざまな困難や不安を抱える女性の増加が浮き彫りとなっている状況のなか、個々に寄り添ったきめ細やかなサポート支援と支援体制の強化が必要となっている。

【事業概要・目的】

生きづらさを抱えながらも声を上げられずに苦しむ女性を救うため、市民団体等の知見を生かした行政だけでは行き届かないきめ細やかな支援を行うことで、助けを必要とする女性をひとりでも多く見つけ、安心して過ごせる居場所を提供し、孤立を防ぎ、辛い気持ちを和らげるとともに、必要な行政支援等に繋げるサポートを行う。

「不安」や「孤独」を抱える女性に寄り添ってサポートします。
「誰かと話したいな」「どこに相談に行ったらいいのかな？」
そう思った女性が対象です。



実績 ピアサポートサロン開催52回、参加者376人/相談窓口OPEN64回、相談件数16件/つながりイベント1回/生理用品・パンフレット・配布カードの配布 市役所、夢みらい館・さばえ、児童館15館、地区公民館10館、小中学校15校